市立浦和高等学校野球部通信
発行者　　鈴木　諭

発行日　　Ｒ７．１２．２４
発行ナンバー　　１２３８号
（鈴木主将の代・・４０号）

本人次第①

毎月校内で発行される学年通信（１学年）は、学年に所属する先生が順番で文章を書く形になっていますが、今月号を担当された書道・小菅先生の文章は部活動にも通ずる内容でした。

小菅先生は書道の先生でありながら、現在、ご自身も書道教室に通われているとのこと。その教室で先生の先生にあたる方（師匠？）から教わったことが書かれていました。

分からないことは分からぬまま自分で想像したり判断したり、知らないことは調べたり聞いたりすればよい。とにかくやってみようと本人が思わない限り道は開けない→主体的に動いて物事を進めるしかない。習う者の姿勢次第で道は開かれていくのだ・・

長いこと高校生の活動を見守っていますが、オフシーズン（野球選手として）伸びるか伸びないかはとにかくコレなのです。
市高野球部員のそういう部分に期待して春を待ちたいと思います。頑張って下さい。

成績会議

２学期の成績会議が行われました。
野球部の成績優秀者は２名でした。
２年
小林（さいたま・大原中）・・・４．５
鈴木蒼（草加・瀬崎中）・・・・４．３

スペース空いてしまったので、我が家のネコの写真になります。１年生よ、誰か・・

本人次第②

市高時代、私の１つ上に大村さんという先輩がいらっしゃいました。その代の４番打者を務めましたが、皆が打てない時に１人だけ打つ、また、ここで打ってくれという時に長打をかっとばすような感じの先輩でした。そのプレースタイルは今の私の指導にとても活きています。当時、バットスイングとは上から最短距離で叩くものという指導を選手皆が忠実に守っていた中、１人、下から上にぶちかましていたのです。また、身体（投手側の肩）を開いて打ってはいけないという指導も全盛な中、大村さんはインコースにヤマを張った時は身体を大きく開き、引っ張った打球で長打をぶちかましていたのです。

今思うと、皆が打てていない時、というのもポイントでした。当時は皆が同じような指導のもと同じようなスイング、結局、低めさえ投げていれば皆、ゴロを打たされる状況だったのです。大村さんは（自分の判断で）完全に我流、結果を出せばどんな打ち方でもいいだろ！そんな感じでした。

自分の考え、判断・・とても大切です。
野球は集団競技ですが、要所要所は個人の判断に任される部分が大きいからです。大村さんのように（周りの指示でやらされるのではなく）自分で考えて自分のプレースタイルを確立することが大切なのです。

春まで・・考えて試行錯誤しながら過ごして欲しいです。まだまだやらされている感じの強豪校が多そうなので、そんな感じのチームを追い抜いて欲しいと心から思います。
頑張りましょう！